留萌農業改良普及センター

大豆ができるまで

1　種まき～芽が出るまで・・５月中旬～６月上旬

畑の土を細かく、くだいてから種をまきます。

種をまいてから10～14日くらいで芽が出てきます。

土の中で虫に食べられそうになったり、芽が出ても鳥に食べられそうになったりします。

2　本葉～花がさくまで・・・６月中旬～７月中旬

芽が出てから２週間くらいで本葉が開いてきます。

どんどん大きくなり、うねの間がふさがる７月中旬ころに小さな花が咲きます。

つぼみが見えるころまでに(それ以降は根を切って花が落ちてしまうため)、キカイで草取りをかねて浅くたがやしたり、人がホーなどで草取りを各３回くらい行います。キカイで浅くたがやすことにより、あたたかい空気が土の中に入り、根がたくさん出て大豆が良くそだちます。

キカイでの作業

ホーを使った作業

3　サヤがついてから～豆が熟するまで・・・７月下旬～９月中旬

メシベに花ふんがつくと大豆のサヤができます。サヤはだんだん大きくなり、中の実もふくらんできます。

花がさいて１ヵ月くらいで、エダマメとして食べられるくらいに大豆の実がふくらんできます。

９月に入ると葉が黄色くなり始め、やがて落ちます。９月中旬ころには大豆のサヤは茶色に中の豆も黄色になりかたくなります。

4　刈り取り～豆落とし・・・9月下旬～10月中旬

大豆の刈り取り～豆落としは、刈り倒してから豆をかんそうさせサヤから豆を落とすという、昔から行われている方法と、畑で立ったままかんそうさせてコンバインというキカイで刈り取って豆を落とす作業まで一度に行う２つの方法があります。

昔からの方法はきれいな大豆になるのですが、手間が多くかかります。コンバインで刈り取りと豆落しを同時にする方法は手間がかからないのですが、大豆がよごれやすくなったり、乾くのを待っている間に雪の下になって収穫できなくなってしまったりすることがあります。

(1) 昔から行われている方法

刈り倒し

⇨

島立て

⇨

にお積み

９月下旬ころから豆刈りきを使って大豆を刈りたおします。

刈りたおした大豆を小さなタバにし、立ててかわかします。

かわいた大豆がくさったりしないように、まとめてつんでボウシをかぶせます。

⇨ 豆落としは、10月中ころから行われ、農家の方の持っているキカイに合わせて、移動式のビーンスレッシャーというキカイを使ったり、はん用コンバインというキカイを使って豆落としを行います。

ビーンスレッシャー

はん用コンバイン

(2) 機械で刈り取りと豆を落しを同時にする方法

コンバインというキカイで豆落しをする場合は、大豆のクキや実が良く乾いた10月中旬ころから行います。

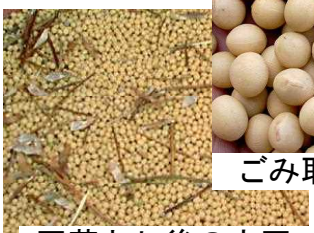
コンバインは、米や麦にも使えるはん用と豆せん用の２つの種類があります。

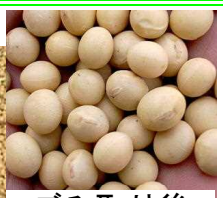
はん用コンバイン

豆用コンバイン

5　かんそう～売られるまで・・・10月下旬～

水分を多く含んでいる大豆は豆落とし後に、カンソウキなどを使ってかわかします。その後、まざっているクキやサヤのかけらを取りのぞきます。ごみを取り除いたら、60kgごと袋に入れて売られます。


豆落とし後の大豆


ごみ取り後

60kgごとに入れられた袋